

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300439		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目7054番地		
自己評価作成日	令和3年7月10日	評価結果市町村受理日	令和3年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人が医療法人にて、他職種との連携強化が図れており、24時間体制で共有ができており、利用者様、ご家族様への 安心に繋がっている。また、近隣に商店街と公園などがあり、散歩や買い物もでき、交通の利便性も高い。施設の中は、職員がご家族のように、子供、孫となり介護支援に関わり、家庭的な雰囲気の中で生活を送られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市街地に位置しており、入居者は日常的に近隣の商店街や公園に出向き、買い物や散歩を楽しんでいる。職員は「馴染みのある地域の中で、老いても、障害を持って、自分らしく暮らせるように」とのホームの理念を周知しており、入居者に寄り添い、気持ちを汲み取りながら、本人の望む生活が送れるよう支援している。また、自立支援に繋げる為に支援方法の検討を図るなどホーム全体で取り組んでいる。ホームの実情は自治会長、民生委員を通じて地域へ発信し相互に協力体制を築いている。地域の方より福祉や介護保険に関する相談を受けた際には、親身になり対応するなど地域貢献へ繋げている。管理者は日頃より職員の悩みや思いに耳を傾け、一緒に考えたり、アドバイスをするなど働きやすい職場づくりに努めている。入居者、職員共に穏やかで温かな雰囲気があるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の玄関、事務所内に掲示しており、毎日の申し送り時に唱和して共有している	管理者は職員へホームの理念を周知すると共に、入居者の思いを汲み取りながら本人が望む生活が送れるよう努めている。2カ月毎のスタッフ会議や支援方法について検討事項が上がった際に、職員間で話し合いを行い、理念を振り返ることで理念に沿った支援に繋げている。新入職者には管理者より理念について説明を行い理解を得ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、回覧板や町内会長・民生委員様の協力にて交流ができています	ホームは自治会に加入しており、回覧板を通じて地域の情報を得ると共に、ホームの実情も伝えている。地域の方より福祉や介護保険に関する相談を受け、親身になり対応するなど地域貢献へ繋げている。また、近隣の一人暮らしの高齢者が気軽に立ち寄るなど地域住民の憩いの場となっている。市民清掃へ職員が参加し地域との良好な関係性を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防に努め町内の方の相談があればその都度対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	長庚堂Ⅱと合同で開催を行い、多人数での話し合いが出来ている	運営推進会議には自治会長・民生委員・地域包括支援センター・家族の参加があり、活発な意見交換の場となっている。自治会長より、近隣の工事に伴いホーム前の交通量の増加が考えられるとの情報や、避難時に使用するヘルメットにライトを取り付けてはとの助言をもとに改良を行うなど、入居者の安全に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や来所にて相談や協力が得られている	市の介護保険課へ、制度改定の際に不明な点を電話にて相談し、早急に対応されるなど、顔見知りでの相談しやすい関係性を築いている。市主催の基礎研修・医療と介護の連携セミナーに参加し認知症に対する理解を深め、日々の振り返りの機会とした。島原地域広域市町村圏組合へ事故報告を行い支援方法に関する相談を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は身体拘束をしない方針で玄関等の施錠もしておらず、研修会に参加し理解を深めている	身体拘束適正化対策検討委員会を3カ月毎に開催し、訪問診療の医師・医療連携看護師・職員が参加し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者から家に帰りたいとの声が聞かれた際には、個別にドライブを行うなど気分転換を図っている。令和2年6月・10月・令和3年8月に高齢者虐待防止に関する研修・他施設の事例をもとに検討会を行うなど身体拘束についての理解を深めた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルス感染予防にて施設内やzoomでの勉強会に参加し、定期的に委員会もおこない、意識付けを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人等の勉強会に参加し学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学と十分な説明を行い同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に聞き取りを行っている 玄関先に意見箱を設置しているが投函された事がない	家族との面会や電話連絡の際に入居者の状況と共にホームの実情を伝えることで意見が言いやすいよう努めている。コロナ禍にて面会が困難な状況である為、個別にライン(SNS)を活用し、入居者と家族が互いに顔を見ながら通話したり入居者の写真を家族へ送信するなど、ホームと家族との距離を縮め、気軽に相談できる関係性を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	対応困難な意見・提案に対しては母体法人の代表者と話し合い反映に努めている	スタッフ会議を2カ月毎に開催し、職員全員が意見を言える機会を設けている。管理者は日頃より職員の思いに耳を傾け、相談しやすい環境づくりに努めている。職員はレクレーション係・誕生日係・オムツ注文係など役割を持って取り組み運営に反映させている。職員の提案にて外出やいつもと異なる食事・おやつを提供することで入居者の楽しみに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見にも耳を傾け環境作りに努力されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修会等にも参加できる機会があり向上心がもてるが、新型コロナウイルスにて開催は減っているがzoom研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島GH連絡協議会・島原支部GH連絡協議会と共に学べる研修会や交流の場をzoomにて開催参加できている		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活での言動で気付く事や安心・信頼関係に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成時や面会時に話す機会を作り耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意見・要望・思いを会話の中で感じとりサービスに繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等も一緒に参加し家庭的な雰囲気作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染の予防に努め電話や手紙等で出来る限り家族との関わりを持っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染の予防に努め電話や手紙等で出来る限り家族との関わりを継続している	ホームはラインを活用し、顔を見ながらの通話や日常の様子を写真を送信するなど、馴染みの人との関係継続の支援に努めている。家族行事である法事や葬儀には職員が付き添い、準備から送迎まで支援している。親類に会いたいとの入居者本人の希望に応じ、職員付き添いにて訪問し会話を楽しむなど入居者の喜びとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通して利用者様同士のふれあう時間が出来ている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に行ったりご家族が来所され近況報告や相談に来られるケースもあり支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望に沿って出来る限り対応する様に心がけているが対応困難時は家族の支援も受けている	職員は入居者との日常会話の中で、今の生活の様子や欲しいもの・やりたい事などを聞き取り、職員間で共有することで入居者の望む生活が送れるよう支援している。買い物は個別に対応し、自分で選んで購入できるなど入居者の楽しみとなっている。職員は入居者とゆっくり話を時間を大切にしており、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・担当者より聞き取りにて把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録・申し送りにて個々に把握するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングを実施し反映させるようにしている	毎月管理者と担当職員にてモニタリングを行い、ケアプランに沿って支援できているか確認をしている。ケアプラン見直し時には、家族・訪問診療の医師・医療連携看護師・管理者にて担当者会議を開催し、現状に即したケアプランになるよう努めている。個人記録に、ケアプランの目標・サービス内容等が貼付しており、プランに沿って記録を行うことで、確実なサービスの提供に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期目標のケア内容の評価を個人記録に記すことで職員間の共有につながっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の他職種からのアドバイスや協力支援を受けながら取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方と一緒に市民清掃やお祭り等の行事にも参加出来るように支援していたが、行事によっては、新型コロナウイルス感染予防にて開催できず参加出来ない事もある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望にて受診できており希望により母体法人からの訪問診療を受けることができる	入居前のかかりつけ医が受診できるよう職員・家族にて支援している。月2回訪問診療・週1回医療連携看護師が訪問するなど入居者の健康管理に努めている。母体医療機関とは24時間体制で相談や診療を受けられるなど協力体制を築いており、入居者・家族の安心に繋がっている。職員は受診時の医師からの留意点を受診ノートに記載し共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の医療連携と24時間体制の母体法人の看護師と常に相談支援が受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人・家族・主治医と相談・連携を図り早期退院へ向ける努力をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画作成時に本人・家族の意向を確認し支援している	ホームは理事長方針にて看取りを行っていない。入居時に事業所が対応しうる最大のケアについて本人・家族へ説明し同意を得ている。ホームは入居時に意向確認を行うも、状況や時間がたつことで、意向に変化が見られるため、定期的に話し合いの場を設け、本人・家族が納得した支援が受けられるよう努めている。令和3年3月看取りについての研修会に参加し学びの機会とした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修会に参加し消防署や母体での救急蘇生法・AED操作等も学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し施設内での訓練及び母体法人の訓練にも参加している 又地元消防団の協力参加と支援体制も築いている	ホームは年2回火災訓練、今年度は2回の水害訓練を実施しており、マニュアルに沿って行動できるよう努めている。訓練は母体法人職員と自治会長も入居者の見守り役として参加するなど地域との協力体制を築いている。自治会長より、コロナ禍が落ち着けば地域住民の協力も得られるとのことであった。母体医療機関が地域住民の避難場所となるなど、ホームが架け橋となり地域住民の安全確保に努めている。	想定外の自然災害が起こっている現状にある為、訓練も多様化していくことが考えられる。水害のみではなく、台風・地震などを含めたマニュアルの読み合わせや勉強会、ホーム内での安全な場所の確認、周囲の避難施設の詳細な現状を把握するなど、更なる入居者の安全確保に繋がるよう今後の取り組みに期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念に基づき保護に努めている	職員は入居者と目線を合わせゆっくりを話すよう心掛けている。また、入居者の気持ちを汲み取り、寄り添ったケアに努めている。トイレ誘導時は耳元で声を掛け、排泄失敗時にはそっと居室へ誘導し衣類交換を行うなどプライバシーに配慮し支援している。母体医療機関に設置してある接遇委員会の検討内容等をホーム職員は共有しており、接遇に関して学びの機会としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で疎通困難な利用者様には筆談やジェスチャーでまたは表情を察知し対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務状態では希望に添えないこともあるができるだけ希望に沿えるよに努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や散髪等は出来るだけ本人の希望を優先し支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行いながら宅配業者と相談を行ったり外食などで好みの食事を摂って頂く工夫を行っている	ホームは配食サービスを利用しているが、入居者より希望があった際は、ホームで準備し提供するなど食事が楽しいものとなるよう支援している。入居者が安全に食すことができるよう刻み食・トロミ食など職員が形態に沿って支援している。ミキサー食を食していた入居者より食事形態変更の希望があり、主治医と連携を図り支援したことで刻み食へ移行するなど本人の喜びとなった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者の栄養士にてバランスの取れたメニューとなっている 又水分補給は気候や体調に合わせて行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて歯磨きをされている ご自分で歯磨きが困難な方には介助にて支援を行い清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら排泄誘導を行っている	排泄チェック表を下に排尿時間を確認しトイレ誘導することで、トイレでの排泄に繋げている。入居者に不快感を与えないようオムツ、パットを使用する際は職員間で検討し最小限の使用になるよう努めている。排泄失敗時はシャワー浴を行い保清を図ることで皮膚疾患予防に努めている。排尿間隔を把握しトイレ誘導を行ったことで、オムツから布パンツへ移行した事例があり、本人・家族の喜びとなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の有無を確認し適度の水分補給・運動を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は定めているが希望や必要に応じて対応している 又ゆず風呂等季節感を味わえる支援も行っている	入浴は週に2～3回を予定しているが、毎日入浴準備をしているため、入居者の希望に合わせた支援ができている。個々の希望に沿った湯温に調整し、気持ちよくゆっくり入浴できるよう配慮している。入浴中は入居者が昔の話をされるなど職員との会話を楽しまれている。シャワーキャリーや浴槽に補助グリップを設置するなど安全に入浴できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の個々に合わせようにはしている不安がある利用者様には落ち着かれるまで側にいて休んで頂いてる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルを作成しマニュアルに基づいて支援・確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや趣味の継続支援にて気分転換を図っている 又家事に参加し張り合いにもつながっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り限りの対応にて外出支援を行っている 又ご家族の支援も受ける事ができている	ホームの近隣に商店街や公園があり、散歩を兼ねて買い物ができるなど入居者の楽しみとなっている。コロナ禍である為、外出先の場所や時間帯を選定し不特定多数との接触がないよう配慮しながら感染予防に努めている。入居者より希望があった際は、ドライブや散歩、買い物など個別に対応し入居者の楽しみに繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が管理出来ていない状態だが自分の好きな物選んで買う事はできる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族の希望で電話や手紙(年賀はがき)など継続できている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には季節毎の飾りとご本人の写真を入れ飾り付けしている	リビングにある大きな掃き出し窓からは明るい光が入り、家庭的で温かな空間となっている。馴染みの入居者同士が会話を楽しめるよう席の配置を考慮している。テレビは2箇所設置しており、テレビ番組は入居者の希望に沿ってその都度変更し楽しまれている。廊下は広く車椅子利用者と歩行者が安全に移動できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングは利用者様の憩いの場となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の希望にて自宅から馴染みの家具や仏壇の持ち込みにて工夫している	居室には備え付けとして、クローゼット・洗面台があり、持ち込み品として、仏壇・テレビ・ラジオ・ゲーム機・籐の椅子・テーブル・タンス・時計があるなど、居心地のよい空間になるよう努めている。ポータブルトイレにはカバーが掛けてあり、プライバシーや羞恥心に配慮している。清掃は毎日行っており、不快な匂いもなく清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて廊下には手すりを設置しており隣接の事業所にはロフトで繋がっていて常に交流ができている		